

ほのぼのとはるこそそらにきにけらし あめのかぐやまかすみたなびく  
やまふかみはるともしらぬまつのとに たえだえかかるゆきのたまみず  
うめがえだにもものうきほどにちるゆきを はなともいはじはるのなだてに  
おおぞらはうめのにほひにかすみつく くもりもはてぬはるのよのつき  
うめがかにむかしをとへばはるのつき こたへぬかげぞそでにうつれる  
ひとりのみながめてちりぬうめのはな するばかりなるひとはとひこず  
しらくものたなびくやまのやまざくら いづれをはなといきておらまし  
ふるさとはなはちりつつみよしのの やまのさくらはまださかずけり  
ながむとてはなにもいたくなれぬれば ちるわかれこそかなしかりけれ  
たがためかあすはのこさむやまざくら こべれてにほへけふのかたみに  
はるすぎてなつきにけらししろたへの ころもほすてふあまのかぐやま  
ほととぎすこゑまつほどはかたおかの もりのいづくにたちやぬれまし  
さみだれのつきはつれなきみやまより ひとりもいづるほととぎすかな  
たちばなのにほふあたりのうたたねは ゆめもむかしのそでのかぞする  
かむなびのみむろのやまのつたかづら うらふきかへすあきはきにけり  
ふきむすぶかぜはむかしのあきながら ありしものにぬそでのつゆかな  
おおぞらをわれもながめてひこぼしの つままつよさへひとりかもねむ  
さをしかのあさたつのべのあきはぎに たまとみるまでおけるしらつゆ  
さびしさはそのいろとしもかなりけり まきたつやまのあきのゆふぐれ  
こころなきみにもあはれにしられけり しぎたつさわのあきのゆふぐれ  
あしびきのやまのあたなにすむひとは またでやあきのつきをみるらむ  
たのめたるひとはなけれどあきのよは つきみてぬべきこちこそせぬ  
あきかぜにたなびくくものたえまより もれいづるつきのかげのさやけさ  
あきのよのながきかひこそなかりけれ まつにふけぬるありあけのつき  
われならぬひともあはれやまさるらむ しかなくやまのあきのゆふぐれ

いつのまにそらのけしきのかわるらむ はげきしけさのこがらしのかぜ  
しぐれのあめのまなくしふればまきのはも あらそひかねていろづきにけり  
をぐらやまふもとのさとにきのはちれば こずえにはるるつきをみるかな  
さよふけてこゑさへさむきあしたずは いくえのしもかおきまさるらむ  
たごのうらにうちいでてみればしろたへの ふじのたかねにゆきはふりつつ  
ゆきのみやふりぬとはおもふやまざとに われもおおくのとしぞつもれる  
けふごとにけふやかぎりとおしめども またことしにあひにけるかな  
きみがよにあへるはだれもうれしきを はなはいろにもいでにけるかな  
をみなえしみるにころはなぐさまで いとどむかしのあきぞこひしき  
よのなかはみしもききしもはかなくて むなしきそらのけむりなりけり  
きのうみしひとはいかにとおどろけど なほながきよるのゆめにぞありける  
わすれなむよにもこしじのかへるやま いつはたひとにあはむとすらむ  
きたへゆくかりのはねにことづてよ くものうはがきかきたえずして  
おもへどもさだなきよのはかなさに いつをまでともえこそたのめぬ  
きみいなばつきまつとてもながめやらむ あづまのかたのゆふぐれのそら  
とぶとりのあすかのそらをおきていなば きみがあたりはみえずかもあらむ  
ありしのよのたびはたびともあらざりき ひとりつゆけきくさまくらかな  
みやこにてつきをあはれとおもひしは かずにもあらぬすさびなりけり  
みやこにもいまやころもをうつやま ゆふしもはらふつたのしたみち  
そでにしもつきかかれとはちぎりおかず なみだはしるやうつのやまごえ  
むらさいきのいろにころはあらねども ふかくぞひとをおもひそめつる  
からころもそでにひとめはつつめども こぼるるものはなみだなりけり  
いくかへりさきちるはなをながめつつ ものおもひくらすはるにあふらむ  
たまのをよたえなばたえねながらへば しのぶることのよわりもぞする  
しのぶるにころのすきはなけれども なほもるものはなみだなりけり

ひとしれぬこひにわがみはしずめども　みるめにうくはなみだなりけり  
ものおもふといはぬばかりにはしのぶとも　いかがはすべきそでのしずくを  
わがこひはあふをかぎりのたのみだに　ゆくえもしらぬそらのうきぐも  
おもひしるひとありあけのよなりせば　つきせずみをばうらみざらまし  
わすれじのゆくすえまではかたければ　けふをかぎりのいのちもがな  
こひしさにけふぞたづぬるおくやまの　かげのつゆにそではぬれつつ  
あふまでのいのちおがなとおもひしは　くやしかりけるわがころかな  
ゆめとてもひとにかたるなしるといへば　たむくらならぬまくだにせず  
いまこむとたのめしことをわすれずは　このゆふぐれのつきやまつらむ  
あふことはこれやかぎりのたびならむ　くさのまくらもしもかれにけり  
ことのはのうつろふだにもあるものを　いとどしぐれのふりまさるらむ  
いるかたはさやかなりけるつきかげを　うはのそらにもまちしよひかな  
ものおもひてながむるころのつきのいろに　いかばかりなるあはれそふらむ  
わすれゆくひとゆゑそらをながむれば　たえだえにこそくももみえけれ  
あはれとてとふひとのなどなかるらむ　ものおもふやどのはぎのうわけ  
はかなぞしらぬいのちをなげきこし　わがかねことのかかりけるよに  
すぎにけるよよのちぎりもわらで　いとふうきみのはてぞはかなき  
むかしみしはるはむかしのはるながら　わがみひとつのあらずもあるかな  
おしめどもつねならむよのはななれば　いまはこのみをにしにもとめむ  
をみなえしさかりのいろをみるからに　つゆのわけきるみこそしらるれ  
やまふかくさこそころはかよふとも　すまであはれをしらむものかは  
やまかげにすまぬころはいかなれや　おしまれているつきもあるよに  
たれすみてあはれしるらむやまざとの　あめふりすさむゆうぐれのそら  
ふるさとはあさがすゑになりはてて　つきにのこれるひとのおもかげ  
ことのはのなかをなくなくたずぬれば　むかしのひとにあひみつるかな

うれしきはわすれやはするいのぶくさ　しのぶるものをあきのゆふぐれ  
よのなかのはれゆくそらにふるしもの　うきみがかりぞおきどころなき  
くりかえしわがみのとがをもとむれば　きみなきよにめぐるなりけり  
うしといひてよをひたぶるにそむかねば　ものおもひしらぬみとやなりなむ  
ひとしれずそのなたをしのぶところをば　かたぶくつきのたぐへてぞやる  
あきのよのあかつきがたのきりぎりす　ひとづてならできかましものを  
ゆふぐれはくものけしきをみるからに　ながめじとおもふころこそつけ  
あきかぜはすごくふけどもつたのはの　うらみがほにはみえじとぞおもふ  
よのなかをいまはころのつくからに　すぎにしかたぞいとどきひしき  
おもふべきわがのちのよはあるかなきか　なければこそはこのよにはすめ  
ながらへばまたこのころやしのばれむ　うしとみしよぞいまはこひしき  
みちとほしほどもはるかにへだてれり　おもひおこせよわれもわすれじ  
ちはやぶるかしいのみやのあやすぎは　かみのみそぎにたてるなりけり  
としをへてうきかげをのみみたらしの　かわるよもなきみをいかにせむ  
なにかおもふなにかはなげくよのなかは　ただあさがおのはなのうへのつゆ  
わたつうみのそこよりきつるほどもなく　このみながらにみをぞきはむる  
いろにのみそみしころのくやしきを　むなしととけるほうのうれしさ  
むらさきのくもちにさおふことのおとに　うきよをはらふみねのまつかぜ  
さらずとていくよもあわらじいざやさは　ほうにかへつるいのちとおもはむ  
いのしへのしかなくのべのいほりにも　ころのつきはくもらざりけり  
あひみてもみねにわかるるしらくもの　かかるこのよのいとはしきかな  
けふはいとどなみだにくれぬにしのやま　おもひいりびのかげをながめて  
にしへいくしるべとおおふつきかげの　そらだのめこそかひなかりけれ  
むかしみしつきのひかりをしるべにて　いまよいやきみがにしへいくらむ  
やみはれてころのそらにすむつきは　にしはやまべやちかくなるらむ